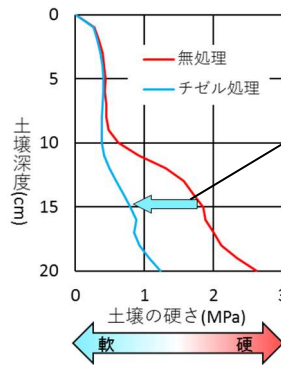


# コムギの枯れ熟れ症状対策

本県のコムギは全国第7位の生産量を誇る産地ですが、近年、成熟期前にコムギが急速に枯れ上がる「枯れ熟れ症状」の発生により収量が不安定となっています。

この対策として、チゼルプラウによる深耕を行ったところ、土壌硬度や作土深の改善が図られ、増収できることを明らかにしました。また、これらを含め「枯れ熟れ症状」が発生しやすい圃場の判断指標と対策技術をまとめた「コムギの枯れ熟れ症状対策」リーフレットを作成しました。



チゼルプラウを用いた深耕により10cm以深が軟らかくなった

チゼルプラウを用いた深耕作業と土壌硬度改善効果

## チゼル処理によるコムギの生育・収量への影響

処理区	苗立数 (本/m <sup>2</sup> )	茎立期 茎数 (本/m <sup>2</sup> )	出穂期 茎数 (本/m <sup>2</sup> )	成熟期 穂数 (本/m <sup>2</sup> )	収量 (kg/10a)	m <sup>2</sup> 当 粒数 (千粒)	千粒重 (g)	タンパク質 含有率 (%)
チゼル区	127	1258	607	538	590	15.2	41.1	9.8
無処理区	125	1146	601	471	537	13.6	40.7	9.3
対無処理区比(差)	102	110	101	114 <sup>※</sup>	110 <sup>※</sup>	112	101	0.5 <sup>※</sup>

注) <sup>※</sup>は、年次および処理の有無の2元配置分散分析を行い、5%水準で有意差を示す。

**コムギの枯れ熟れ症状対策**

埼玉県農業技術研究センター

**枯れ熟れ症状とは?**

※ 稈節の右側が枯れ熟れ部分

- コムギの成熟前に葉が急速に枯れ上がる。
- 健全なところと比べると生育が劣り収量が低下する。
- 県内の低収ほ場でよくみられる。

**枯れ熟れ症状の判定**

- 1 出穂後に高温、乾燥の気候が続く
- 2 成熟期前に穂、茎葉が急激に黄色くなる
- 3 葉が細く、収量が少ない
- 4 土壌が乾燥している
- 5 土壌が固い

枯れ熟れ症状がみられた圃場の土壌水分の推移 (圃場1区, 深0.15~0.20m, 2016~2018)

**枯れ熟れ症状が発生しやすいほ場の4つの判定指標**

- 1 土地硬さを入手しましょう
- 2 土壌が固く締まっていますか?
- 3 土壌が乾きすぎていませんか?
- 4 土壌が酸性に傾いていませんか?

※ 調べてみましょう

- ・直径5mm程度のファイバーボールを沖すまで押し、地面に垂直に押しこんで、止まった深さがたいだい2MPaの目安です。
- ・1つの深場で5地点以上、1地点につき5回以上押し込んで平均値をとります。
- ・中央値が15cm以下の場合は、要改善です。

※ 調べてみましょう

- ・オーガなどで15~20cm程度(耕深より1~2cm深く)の穴を1段につき3か所以上掘ります。30mm程度の両端の単斗~1斗でめがなくなるようだと排水性は良好ですが、乾燥しすぎる可能性もあります。

「コムギの枯れ熟れ症状対策」リーフレット  
(<http://www.pref.saitama.lg.jp/b0909/suidenkoudoriyou.html>)